

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 93
2024.01

TOPICS

1

桃太郎FD・SDフォーラム2023を開催



2023年12月26日、「桃太郎FD・SDフォーラム2023」を開催しました。本フォーラムは「主体的な学びにつながるコミュニケーション力の養成」をテーマに、基調講演とセッションの2部構成で開催。学内外から108人の教職員・学生が参加しました。

基調講演では、はじめに株式会社好日山荘の松本良一代表取締役社長が登壇し、企業経営者の立場で、スタッフ、お客様とのコミュニケーション、また自社のノウハウを生かした社会貢献活動におけるコミュニケーションに関する話がありました。続いて、株式会社ユイ・コミュニケーション・ラボの多賀公人代表取締役から元アナウンサーならではの視点で、組織を良くする上で必要な個人個人のコミュニケーションについて、自身の経験談を交えた話がありました。参加者からは、教える側として必要なコミュニケーションの方法について多くの質問が寄せられました。

続いて開催されたセッションでは、基調講演者2人とともに本学教育推進機構の町田尚史准教授、PRICHARD CALEB SYLVE准教授が3つの会場に分かれて登壇しました。それぞれの会場で、学生のコミュニケーション力の養成について対談・講演が行われ、参加者は熱心にグループワークに取り組み、積極的に登壇者へ質問する姿も見られました。セッションを通じて、コミュニケーションに関する気づき、学びの深まる時間となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12767.html



TOPICS

2

岡山大学職員内定者の職場見学会を開催

本学は1月5日に、令和6年4月1日採用予定者等の内定者職場見学会を開催しました。見学会には事務職員等の内定者等計31人（うち14人は採用者）が出席し、冒頭、那須保友学長から激励を受けました。

その後、津島地区の9つの部署を見学し、先輩職員からの業務紹介を聞くことで仕事への理解を深めるとともに、大学職員となる自覚を新たにしました。

参加した採用者の一人は「既に働き始めているが、職場の雰囲気良く、昼休みにスポーツでリフレッシュしながら前向きに働くことができている」とコメント。また、内定者は「春から大学に貢献できるよう、学びを深めていきたい」と今後の抱負を述べました。春から一緒に働けることを心待ちにしております！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12748.html



Pick up!

附属学校の児童が待望の大谷グローブと対面！ 校内に響く児童たちの歓声！



1月9日、教育学部附属小学校と附属特別支援学校小学部では冬休みを終えた児童たちが元気に登校し、3学期が始まりました。TV放送による始業式終了後、児童たちが待ちに待っていた大谷翔平選手から届いたグローブがお披露目されました。児童たちはTV画面に釘付けとなり、グローブに同封されていた大谷選手からのメッセージが読み上げられると、校内には大きな拍手と歓声が響き渡りました。届いたグローブは初めに体育の授業で使用され、児童たちは感触を確かめていました。

附属特別支援学校では、小学部の児童たちがプレールームに集合し、金久傑小学部教頭からグローブがお披露目されました。グローブを使った模範演技を見た児童たちは、キャッチボールを早くやってみたくワクワクしていました。大谷選手、全校児童みんなの感謝を届けます！

「大谷選手グローブありがとう！みんなで勉強も野球もがんばります！」

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12750.html



TOPICS

3

令和6年能登半島地震の被災地へ岡山大学病院DMATを派遣

岡山県からの派遣要請を受け、岡山大学病院から医師2人、看護師2人、業務調整員3人（薬剤師、診療放射線技師、理学療法士各1人）のDMATチームが、1月16日午後2時に令和6年能登半島地震の被災地へ出発しました。

出発式では、前田嘉信病院長から被災地に向けて出発する職員へ激励の言葉がかけられ、DMATメンバーを代表して小崎吉訓医師が「西日本豪雨のときは全国からDMATチームに来ていただいたので、その恩返しの意味も込めて少しでも貢献できたらと思います」と意気込みを語りました。出発式には那須保友学長も激励に駆け付け、出席者全員の拍手で送り出しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12770.html



TOPICS

4

学生起業家の登竜門として知られる「キャンパスベンチャーグランプリ」の中国大会で、本学学生が最優秀賞を含む5つの賞を受賞！

“学生起業家の登竜門”として知られているキャンパスベンチャーグランプリの中国大会において、工学部2年の崎本知椰さんが最優秀賞を、大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の山内翔斗さん・福村徹さんのグループ、工学部3年の大西一碧さんがそれぞれ優秀賞を、大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の赤羽拓郎さん・渡邊峻さん・米原悠人さんのグループが特別賞を、大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の後藤直毅さん・澤田海さんのグループが奨励賞を受賞し、1月17日に表彰式が開催されました。

最優秀賞を受賞した崎本さんは「日本ミツバチによる資源回収と高付加価値化」というテーマで提案。原子力災害で利用できなくなった場所を日本ミツバチによって有効活用できないかとの思いからビジネスとして成り立たせる内容までを語りました。また、このプランを全国の活用しにくい身近な自然にも拡大していくことで事業として成り立たせ、福島に新たな文化を創出したいと今後の展望を語りました。受賞を受けて崎本さんは「ビジネスコンテストに出るのは初めてで、中国大会ではたくさんの良い経験を積めました。いただいたアドバイスを参考に、全国大会では悔いの残らないよう頑張ります」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12787.html

PRESS
RELEASE

ブドウを根頭がんしゅ病から守る！拮抗細菌が根頭がんしゅ病を抑制する仕組みを解明～病原細菌に感染する頭部を欠いたファージ尾部様粒子rhizoviticinを発見～

岡山大学大学院環境生命科学研究科の石井智也大学院生（当時）、齋藤晶大学院生（当時）、Niarsi Merry Hemelda大学院生（博士後期課程3年）、農学部の土田菜月学部生（当時）、大学院環境生命自然科学研究科の包継源大学院生（博士後期課程1年）、学術研究院環境生命自然科学学域（農）の渡邊恵非常勤研究員（当時）、能年義輝教授と農研機構西日本農業研究センターの川口章上級研究員、理化学研究所環境資源科学研究センターの佐藤繭子技師、豊岡公徳上級技師、石濱伸明研究員、白須賢副センター長、九州大学大学院医学研究院の林哲也教授らの共同研究グループは、ブドウの重要病害である根頭がんしゅ病を抑制できる拮抗細菌が、頭部を欠いたファージ尾部様粒子によって根頭がんしゅ病の病原細菌を溶菌することで防除能を発揮する仕組みを明らかにしました。

根頭がんしゅ病は土壌に生息する植物病原細菌によって引き起こされ、化学農薬での防除が難しい病害です。このような病害には拮抗微生物（生物農薬）が有効です。岡山県農林水産総合センターではブドウ根頭がんしゅ病を極めて強力に抑制する拮抗細菌を特定していましたが、今回その作用機序が明らかになったことで、拮抗細菌の生物農薬としての利用や、さらに有望な菌株の単離に道が拓け、世界のブドウやワイン生産の安定化への貢献が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1181.html

